

2025 年度

農検 3 級

日本農業検定 3 級試験問題

全 50 問

試験時間 50 分

注意事項

※監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

※問題冊子の持ち帰りはできません。

空白ページ

問 1 農業についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①農業の基本的な役割は、第一に私たちの命を支える食料生産である。
 - ②植物由来の医薬品の原料の生産も含まれる。
 - ③綿や絹、麻などの衣料品の素材には関わっていない。
 - ④太陽のエネルギーと土地の力を利用して作物を栽培したり、家畜を育てたりする産業である。
-

問 2 農業・農村の現状についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①基幹的農業従事者の数は、2000年から2022年までの間で、3分の2に減少した。
 - ②2022年の基幹的農業従事者の平均年齢は62.2歳である。
 - ③2022年の49歳以下の新規就農者は1.7万人となっており、減少傾向にある。
-

問 3 食料自給率についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①日本は食料自給率が高いため、輸入食料の供給が途絶えても、問題ないとされている。
 - ②みそ汁の材料である大豆は輸入に頼っているため、自給率が低い。
 - ③1962年から2022年の60年間で日本国民一人あたりの年間の米消費量は半分以上になった。
-

問 4 野生鳥獣による被害と対策についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①2021年度の野生鳥獣による被害のうち、獣類による被害額が8割強を占めている。
 - ②獣類による被害の中では、イノシシによるものが最も多く、次いでシカによる被害が多くなっている。
 - ③農水省では野生鳥獣被害対策の鉄則として、個体群管理、侵入防止対策、生育環境管理の3つを柱としている。
-

問5 健康志向に応える農産物の開発についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① サツマイモ「すいおう」は豊富な葉と茎を食べる品種である。
 - ② 早生のソバ新品種「春のいぶき」は年間を通して新そばが食べられるよう開発された。
 - ③ アントシアニンを多く含む黒大豆「クロダマル」は、暖地向けの品種である。
-

問6 地球温暖化についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 大気中に温室効果ガスが増えることで、多くの紫外線を吸収し、地球の温度が高くなる。
 - ② 温室効果ガス全体の中で、化石燃料の燃焼によって発生するフロンが 66%を占めている。
 - ③ 世界人口の増加が、エネルギー消費の拡大に繋がり、地球温暖化の進行につながっている。
 - ④ 地球規模で気温や海水温が短期間に急上昇する現象を地球温暖化という。
-

問7 地球温暖化の農業への影響についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① これまで北方にしかいなかった病原菌の生息域が南下すると考えられている。
 - ② 果皮の着色不良の事例が報告されている。
 - ③ イネの高温障害には、粒が細くなり収穫量が落ちる「白未熟粒（しろみじゅくりゅう）」の増加がある。
-

問8 高温障害への対策についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① イネの高温耐性品種「つや姫」などの導入を進める対策が始まっている。
 - ② 温暖化を利用して、高温に強い南欧原産オレンジをミカンの生産地に導入する試みがある。
 - ③ イネの高温対策として、収穫間際までかけ流しをしない水管理の工夫がある。
-

問 9 地産地消の利点についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①作物の輸送距離が短いため、CO₂の排出量削減につながる。
 - ②地域の食文化への理解が深まることで、伝統的な食文化の継承につながる。
 - ③生産者にとっては、消費者のニーズにかかわらず、販売したい野菜を売ることができる。
-

問 10 フード・マイルージについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①フード・マイルージの計算方法は「食料の輸送量 (ton) × 食物を食べる消費者の数 (人)」である。
 - ②食料の地産地消は、フード・マイルージを小さくし、環境を守ることに繋がる。
 - ③フード・マイルージはイギリスのフードマイルズ運動を参考に、農林水産省で開発された指標である。
-

問 11 肥満についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①高血圧・脂質異常症・糖尿病とは関係がない。
 - ②内臓脂肪型肥満は、メタボリックシンドロームの要素の一つである。
 - ③食べ物からとった「摂取エネルギー」が消費されずに余ると、その分は脂肪として体内に蓄えられる。
 - ④加齢による体のおとろえに肥満が加わることで、突然死の原因ともなる睡眠時無呼吸症候群にも大きな影響をおよぼす。
-

問 12 五大栄養素についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①炭水化物・脂質・タンパク質を三大栄養素と呼び、これに無機質・ビタミンを加えて、五大栄養素と呼ぶ。
 - ②炭水化物は糖質と食物繊維に大別され、糖質は主にエネルギー源となり、食物繊維は腸の調子を整える働きがある。
 - ③タンパク質は植物油やバターの主成分であり、摂取された後、主にエネルギー源として使われる。
 - ④ビタミンは三大栄養素の代謝を助ける働きがある。
-

問 1 3 「だし」についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①「にぼし」と「こんぶ」のみを使ってとった「だし」を「合わせだし」という。
 - ②「こんぶだし」の主な用途は煮物、味噌汁であり、主たるうま味成分はイノシン酸である。
 - ③「だし」を効かせて塩分を控えめにすることで、素材の味を生かしておいしく仕上げることができ、生活習慣病予防にもなる。
-

問 1 4 和食についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①主食（ご飯）、主菜、副菜、副々菜で構成され、この構成は「一飯三菜」と呼ばれる。
 - ②日本人の精神を体現した社会的慣習で独自の食文化である。
 - ③和食文化は、正月などの年中行事と密接に関わっている。
-

問 1 5 野菜の旬についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①旬の時期の野菜は、出まわる量が多いが、一般においしさや栄養価の面では他の時期との違いはない。
 - ②菜花、フキ、新キャベツ、新タマネギは、春が旬の食材である。
 - ③ピーマン、えだまめ、オクラ、かぼちゃは、秋が旬の食材である。
 - ④ほうれんそう、山いも、京菜（水菜）、こまつなは、夏が旬の食材である。
-

問 1 6 日本の伝統的発酵食品についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①日本の文化や歴史、風土と深いかわりをもっている。
 - ②その地域で生まれ、生活した人々が自然と共生しながらつくりだした加工の知恵が詰まった食文化である。
 - ③醤油やみその原型である「比之保（ひしお）」は、鎌倉時代に日本に伝来した。
 - ④醤油・味噌・納豆・かつお節・日本酒は、伝統的な発酵食品であるとともに、日本の代表的な加工食品である。
-

問 1 7 生鮮食品の表示についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①「野菜」「果物」では、名称と原産地が表示される。
 - ②「肉」は名称が表示され、国産品には「国産」、輸入品には「輸入品」とのみ表示され原産国の表示は省略される。
 - ③養殖した魚は「養殖」、冷凍品を解凍した魚には「解凍」と表示される。
-

問 1 8 食作法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食事における作法は、「自然の恵みへの感謝」など、人々の気持ちから生まれた。
 - ②日本においては「迷い箸」や「渡し箸」など、箸の使い方に関するタブーは数多くある。
 - ③食事のとき大皿から取り分けるのに使う「取り箸」は、直接口に付けてもよい。
 - ④食後の「ごちそうさま」は、食材を運んでくれた人、料理を作ってくれた人への感謝を表す。
-

問 1 9 食の安全管理についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①冷凍庫に保管することで、食材に付着した細菌やウイルスを殺すことができる。
 - ②食中毒を引き起こす細菌やウイルスには、腸炎ビブリオ、サルモネラ菌、腸管出血性大腸菌、ノロウイルスなどがある。
 - ③細菌性食中毒の予防の原則は、原因となる細菌を「つけない」「増やさない」「殺菌する」ことである。
 - ④ウイルス性食中毒の予防の原則は、原因となるウイルスを「持ち込まない」「ひろげない」「ウイルスをつけない」「ウイルスを殺す」ことである。
-

問 2 0 食中毒についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①ウイルス性食中毒には感染型と毒素型がある。
 - ②カキはノロウイルスを蓄積している可能性があるため、食材の中心部に十分火が通るように加熱すると良い。
 - ③魚毒・貝毒は、細菌性食中毒にあたる。
-

問 2 1 腐敗を防ぐための食品の保存法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①食品の腐敗は、微生物の増殖によっておこる。
 - ②乾燥により食品の水分を減らすと、腐敗しにくくなる。
 - ③塩漬けでは腐敗を抑えることができるが、砂糖漬けでは抑えることはできない。
-

問 2 2 発酵についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①通常、発酵においては特定の種類の微生物が増殖する。
 - ②一部の発酵食品では、微生物が作り出した酸やアルコールの抗菌作用によって、保存性が高まる。
 - ③ヨーグルトは、乳酸発酵中にアルカリ性の度合いが高まることで乳タンパク質が凝固してできる。
-

問 2 3 嫌光性(けんこうせい) 種子の野菜で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①カボチャ
 - ②カブ
 - ③ゴボウ
 - ④レタス
-

問 2 4 高い温度を好む野菜について、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ナス
 - ②ピーマン
 - ③サトイモ
 - ④ダイコン
-

問 2 5 光合成についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①光のエネルギーを使い、水と二酸化炭素からタンパク質をつくるはたらきである。
 - ②農作物の収量や品質を向上させるには、光合成量を高めるための栽培管理が重要になる。
 - ③光合成は、植物の葉の孔辺細胞で行われる。
 - ④生命を維持するために、すべての生き物は光合成を行っている。
-

問 2 6 呼吸についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①呼吸は、体の維持と成長に必要な「生命活動エネルギー」をつくり出す作用である。
 - ②植物の呼吸は、二酸化炭素を吸い、酸素を吐き出す。
 - ③植物の呼吸は、夜に行われる。
-

問 2 7 「肥料の3要素」についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①窒素は、植物の葉や茎の生育を促進する。
 - ②リン酸は、植物の根の発育を促進し、葉の色を濃くする。
 - ③カリウムは、植物の根や茎を強くし、耐寒性や耐病性をつける。
-

問 2 8 有機質肥料についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①油かすは、リン酸が豊富な肥料である。
 - ②魚かすは、窒素、カリウムを含む肥料である。
 - ③骨粉は、リン酸を多く含む肥料である。
 - ④草木灰は、窒素を多く含む肥料である。
-

問 2 9 作物の土壌酸度 (pH) についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①多くの作物の生育に適した土壌の pH は、5.5～6.5 の弱酸性といわれている。
 - ②pH が低い (酸度が強い) 土壌は、石灰 (カルシウム) をまくことで pH を調整することができる。
 - ③ホウレンソウは酸性に弱い作物である。
 - ④サツマイモやニンジン、は、酸性にやや弱い作物である。
-

問 3 0 野菜の原産地について、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ナスの原産地はインドである。
 - ②トマトの原産地は北アメリカである。
 - ③キュウリの原産地はヒマラヤ山麓である。
 - ④アシタバの原産地は日本である。
-

問 3 1 化学肥料についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①窒素、リン酸、カリウムの含有率の合計が 20%以上ものを高度化成肥料という。
 - ②速効性肥料は施肥後すぐに効果があらわれ、比較的効果も長い。
 - ③化学肥料の入った肥料袋に表記される 8-8-8 という数字は、窒素・リン酸・カリウムが各 8%含まれていることを示している。
-

問 3 2 害虫の防除方法についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①シルバーマルチには害虫の飛来防止効果があり、物理的防除のひとつである。
 - ②混植することで害虫を防除する方法は、生物的防除のひとつである。
 - ③天敵を活用して害虫の数を減らす方法は、耕種的防除のひとつである。
-

問 3 3 プランター栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①標準プランターの土の容量は 50L である。
 - ②プランター栽培では、すぐに肥料効果が現れる速効性肥料を使うとよい。
 - ③株元から遠い位置に肥料を施す条溝施肥(じょうこうせひ) は、プランター栽培の施肥に向いている。
-

問 3 4 プランター栽培に適した用土についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①赤玉土は保水性と保肥性に優れるが、排水性は悪い。
 - ②腐葉土は排水性と通気性に優れ、土の微生物を増やす。
 - ③パーライトは通気性、保水性があり、比重が軽いので配合すると用土の軽量化ができる。
-

問 3 5 イネの種子から伝染する病気についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①ばか苗病
 - ②モザイク病
 - ③いもち病
 - ④もみ枯(かれ) 細菌病
-

問 3 6 イネの種子選別で行う「塩水選(えんすいせん)」についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①塩水選に適する塩水の濃度は、生卵を浮かせた時、生卵が横に浮いて 10 円玉大ほどが水面に出ている状態である。
 - ②塩水に浮いたもみを種子とする。
 - ③種もみを塩水から取り出した後、陰干しをして種子とする。
-

問 3 7 バケツイネの水管理についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①バケツに移植した苗が少し生長したら、水を加えて 5cm ほど張る。
 - ②暑い夏場は、バケツに張った水がなくなったら水を加える作業を繰り返し行う。
 - ③バケツの水を抜く「中干し」は、土の表面にひび割れが出始めたら終了する。
-

問 3 8 コマツナについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①収穫後の保存期間が長い、葉物野菜の仲間である。
 - ②鎌倉時代から雑煮などの伝統的料理に欠かせない野菜として食べられてきた。
 - ③酸性土壌では栽培が難しく、連作障害がしやすい野菜である。
 - ④産地は、大消費地（都市）近郊に集中している。
-

問 3 9 結球レタスについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①生育が進むにつれて、内側の葉が発達し結球を始める。
 - ②日本では、結球レタスよりも葉（リーフ）レタスやサラダ菜の方が、一般的に食べられている。
 - ③結球レタスは、葉（リーフ）レタスやサラダ菜に比べると栽培が難しい。
-

問 4 0 レタスの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①20℃以上の高温に反応して花芽分化する。
 - ②花茎が伸びる「とう立ち」は、品質を悪くする。
 - ③種まきをする2日ほど前に種子を冷蔵庫に入れ、低温にあわせると発芽しやすくなる。
 - ④土の乾燥による品質の低下を防ぐため、夏・秋は同量の水やりを1日2回行う。
-

問 4 1 青ジソと赤ジソについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①青ジソの葉は「大葉」とも呼ばれている。
 - ②青ジソは、アクがあるため加工品によく利用されている。
 - ③赤ジソは薬味としてよく利用されている。
-

問 4 2 シソの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①直まきでも移植でも栽培することができる。
 - ②葉をやわらかくするため、やや日陰になる場所で栽培した方が良い。
 - ③セルトレイに播種すると根鉢の形成は早まるが、抜き取ることが難しくなる。
 - ④草丈が 15～20cm の頃、わき芽を増やして葉の数を多くするため、先端の芽を摘しんすると良い。
-

問 4 3 赤カブについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①表面の紅色には、アントシアニンという色素が含まれている。
 - ②赤カブの栽培では、白カブよりも水やりを少なくする必要がある。
 - ③どんな品種の赤カブも表面は紅色だが、内部は白い。
-

問 4 4 ジャガイモについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①原産地は、中国南部の長江流域である。
 - ②連作障害の出にくい野菜である。
 - ③太陽にあたると、ソラニンやチャコニンと呼ばれる神経に作用する毒素が増える。
 - ④秋に植え付ける場合は、休眠期間の長い品種が適している。
-

問 4 5 ジャガイモの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①種イモは、ウイルス病のない品質が保証されているものを購入する。
 - ②酸性土壌では、そうか病が出やすくなる。
 - ③種イモを切った場合は、腐敗を防ぐために切り口を乾かす。
-

問 4 6 エダマメについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①耐暑性があり、低温にも強い作物である。
 - ②日当たりが良い場所は、生育場所には適さない。
 - ③開花期は水分を多く求めるが、過湿には弱い。
-

問 4 7 エダマメの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①プランターに種をまく場合、種まきの深さは種子の 1.5 倍が目安である。
 - ②生育初期は鳥の害を受けやすいため、防鳥網（ぼうちょうもう）や不織布（ふしよくふ）をかけておくとよい。
 - ③花が咲く頃から実が肥大する頃に、窒素分の多い肥料を施すとよい。
 - ④主茎の先端を摘しんすると、わき芽が伸びて枝数が増え、収穫量が増加する。
-

問 4 8 エダマメと根粒菌の関わりについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①エダマメは、根粒菌に光合成でつくった酸素を供給している。
 - ②根粒菌は土壌中の窒素を取り入れて固定し、エダマメに供給している。
 - ③エダマメと根粒菌のように、異なる種の生物が互いに関係をもち、同じ場所で生活することを共生という。
-

問49 イチゴについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ①品種を問わず花芽分化に低温・短日を必要とする。
 - ②果実は、子房が肥大したものである。
 - ③栃木県産の品種「とちおとめ」は、県外での栽培が許可されている。
-

問50 イチゴの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ①苗をプランターに定植する際は、親株からのランナーが付いている反対側方をプランターの縁に寄せて植える。
 - ②苗を定植する場合は、成長点であるクラウンをしっかりと土に埋めることが大事である。
 - ③連作障害が起こりやすいので、連作での栽培は避ける。
 - ④翌年に向けて苗を増やす場合、親株から出たランナーの2番目、3番目の子株を育てる。
-

日本農業検定